

おばけって何？

- 興味から学びへ向かう環境作り -

新宿三つの木保育園
もりさんかくしかく



大好きな絵本

普段から保育者は率先して学びに向かわせるのではなく、まず環境を整え、子どもの気付きを大切にしてきた。それでは具体的にどのような環境を設定すればよいのか、どんなことをきっかけに子どもたちの学びへつなげることが出来るのか、具体的な形にすることはなかなか難しく、日々試行錯誤していた。

そんな中、夏に合わせて「おばけに関する絵本」を読んだところ、繰り返し同じおばけの絵本を読んでほしいと保育者に伝えたり、制作コーナーでおばけを作ってみたり、様々な子がおばけに興味を持っていた。それを間近で見っていた担当保育者はそこから学びへつなげることが出来るのではないかと考えた。



10月末に、ハロウィンを控えていたので、9月10月でおばけやハロウィンに関する環境を設定する事にし、子どもたちがどのように興味を膨らませていくのかを記録することにした。そして、興味から学びへ向かうためにどのように保育者が関わりを持ち、環境を変化させたらいいのかをまとめていきたい。

おばけを知りたい！

以下の通りに環境を設定し、子どもたちの様子を記録した。また、子どもの様子に合わせて、その都度保育者間で話し合いを行い、環境の改善を行った。

1.絵本設置

- ハロウィンに関する絵本、日本のおばけの絵本など様々な種類を設置
- 興味のあるような人気の絵本は活動の前などの隙間時間で改めて読み聞かせを行う



2.おばけポスト設置

- 子どもたちのアイデアによる、おばけと仲良くなるためのポスト設置

3.衣装制作

- おばけの衣装づくりに使えるようなカラーポリ袋を制作コーナーに設置



4.ハロウィンパーティーを行う

- おばけからの手紙の返事を用意した
- 改めて衣装づくりをした後に、衣装を着て室内で遊ぶ



おばけと仲良くなりたい！

1.絵本設置

おばけに「会いたい」「おばけになりたい」などの感想を持っていたので、2.3.にもあるように、子どものアイディアを参考におばけと仲良くなれるようポストを設置したり、衣装の材料を設置したりしている。また、様々な場面で「トリックオアトリート!」と言って楽しむ様子が見られた。

2.おばけポスト設置

「どんな食べ物が好きなのか?」「友だちになりたい」「どこにいるか教えて」など、様々な手紙や、塗り絵の贈り物があった。また、手紙を書きたい気持ちから、平仮名表を見ながら取り組む姿があった。

3.衣装制作

マントを作るなど仮装用の衣装を作っていた。また、衣装だけでなく、おばけと仲良くなりたいという思いから、おばけ用のお菓子を作ったり、おばけそのものを作ったりしていた。その中で、子どもたちの中から自然とハロウィンパーティをやりたいという声があがった。



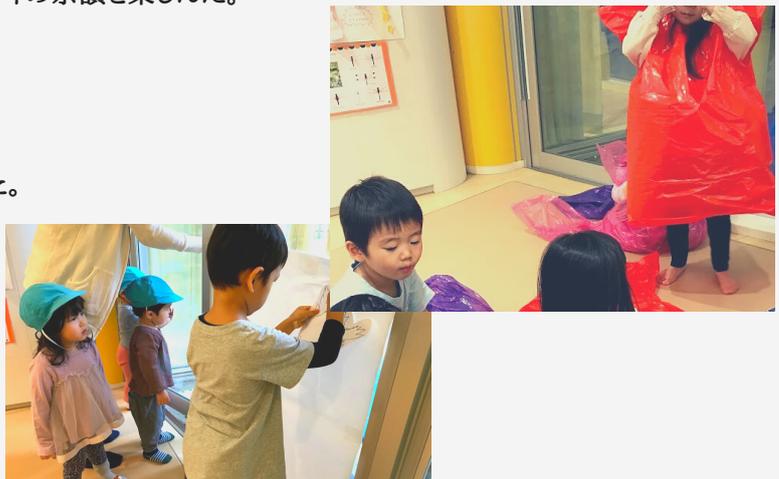
おばけはどこかな？

4.ハロウィンパーティ当日

パーティ当日、子どもたちからたくさんの手紙が送られていたので、おばけから返事の手紙を用意した。おばけの手紙には「ハロウィンパーティに遊びに行くね」という言葉があり子どもたちは大喜びでおばけを探していた。「どこにおばけがいるのか?」という期待感を持ち、「どうしたら会えるのか?」ということをみんなで考えながら一日過ごしていた。そして、想像の余地を残すため、その日はあえておばけがやってきたという痕跡を作らなかった。次の日おばけのイラストを室内に設置すると、「自分たちも作りたい」という意見があったので、子どもたちが作ったおばけを設置できるコーナーを作り、パーティの余韻を楽しんだ。

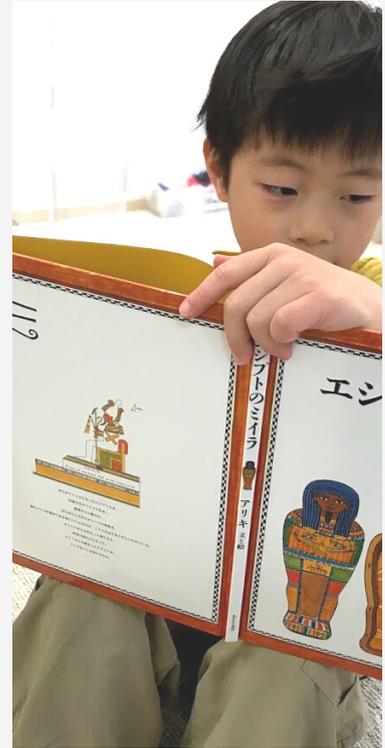
5.世界のおばけの絵本設置

興味が続いたので、今年のテーマに沿い「世界」のおばけにまつわる絵本を設置した。怖がりながらも、興味を持って読んでいる姿が見られた。



好きな事は、もっと知りたい！

実践では子どもの興味に沿って環境を設定していった。すると、やはり多くの子どもがもっとやりたい!もっと知りたい!という気持ちを持ったように感じる。「おぼけ」というテーマから「ハロウィンパーティ」へと繋がり、西洋の文化へ触れることが出来た。そして、「世界のおぼけ」「世界ってどんなところ?」と興味が繋がっていった。



今回一つの事例を深く記録することで、より良い環境にするためには一人の意見ではなく、職員全員で協力しながら環境設定を色々な意見を集めることが重要であることが分かった。このことから、日々の保育の中で、その時その時の子どもたちの興味を敏感に察知し、どうすればその興味が学びへと繋がっていくのかを保育者同士でよく検討し、環境へと生かしていくことが重要だと考察する。また、今回は一つのテーマに重きを置いたが、興味は一つのものとは限らない。いろいろな興味が日々生まれている。これからは色々な興味が環境へと生かしていくことで、より様々な学びに繋がっていくのではないかと考える。

